

## 進路ガイダンス〈各学校の受験概要〉

### I 大学・短大

#### ①国公立大と私大の違い

##### 1) 国公立大

- ・学費が安い（特に理系で私大と大きな差）
- ・教員一人に対する学生数が少ない（手厚い指導が行われる）
- ・大学入学共通テストと各大学の個別試験（記述式）の総合点で合否判定
- ・受験科目が多い（国立大→5教科、公立大→4教科等）
- ・地方の国公立大は、関関同立より合格チャンスが大きい？（私大定員厳格化の影響）

##### 2) 私大

- ・受験科目数が少ない（3科目が一般的。2科目に絞ると倍率、合格最低点ともに上がる）
- ・施設が新しいことが多い

#### ②受験方式の名称、日程、内容

##### 1) 総合型選抜（旧AO入試）

- ・出願9月以降、合格発表11月以降
- ・専願の学校が多いため、エントリー前に必ず担任に相談する
- ・志望理由書、活動報告書、面接、小論文、教科・科目にかかわるテスト等で判定（学科テストがある場合、一般選抜より科目数が少ない）

##### ※注意：専願とは

- ・合格したら必ずその学校に入学することを誓約する出願方式
- ・合格後の辞退はできない。心理的または金銭的不安がある場合は専願で受験しない
- ・保護者、担任と相談した上で、専願誓約書を高校に提出した上で出願

##### 2) 学校推薦型選抜（旧公募推薦）

- ・出願11月以降、合格発表12月以降
- ・専願または併願
- ・各大学の推薦条件を満たせば、学校長の推薦を得て出願
- ・志望理由書、活動報告書、面接、小論文、教科・科目にかかわるテスト等で判定。一般選抜より科目数が少ない
- ・現役生は2月・3月まで学力が伸びるため、学力が伸びる前の進路決定が妥協や後悔につながる危険性あり
- ・併願で進路先を確保しておくためには、入学金（30万円程度）を納めなければならない

##### 3) 一般選抜（旧一般入試）

- ・出願1月以降、合格発表2月以降
- ・併願
- ・私大は入学定員厳格化のため、中堅以下の大学で倍率が上がり、難化
- ・英語外部検定（GTEC、英検）は、各大学・学部によって、出願要件、加点などに利用

### ③大学入学共通テスト（旧センター試験）

#### 1) 概要

- ・国公立大は 一次試験として必須  
→阪神間の国公立大は7割、地方の国公立大は6割以上の得点が必要。ただし、理系の地方国公立大では5割台でも合格の可能性あり
- ・私大は「共通テスト利用方式」、「併用方式」（共通テスト+各大学の個別試験）がある  
→私大志望者は受けておく方がよい
- ・教科書レベルの問題で、8割は1・2年次の学習内容
- ・9月に高校で取りまとめて出願

#### 2) 旧センター試験からの変更点

- ・英語は、リーディング：リスニング＝100点（80分）：100点（30分）。  
リーディングとリスニングの点数は各大学で傾斜配点を決めるが、リスニング配点は、旧センターのリスニング（50点）より増加の傾向。
- ・数学①（数Ⅰ・数ⅠA）は70分
- ・全体として、思考力を重視した出題傾向

## II 専門学校（「専修学校」）

### ①確認すべきこと

#### 1) 専門学校の種類

- ・専門課程（“専門学校”）…高卒以上が対象
- ・高等課程（「高等専修学校」）…中卒以上が対象
- ・一般課程…入学対象制限なし

#### 2) 都道府県からの認可

- ・認可校…専門課程は認可校
- ・無認可校

→分からなければ、相手校に電話で聞く

文部科学省のホームページで検索

都道府県の学事課に問い合わせる

### ②受験方式

専願のAO入試が主であるため、保護者を交えてしっかり検討し、エントリー前に担任に相談する

### ③最低でも3校は見学して比較検討（1校の見学で決めない）